介護予防普及啓発事業			KPI			評価・効果検証結果		
高齢者福祉課・高齢者福祉係	指標	単位	R6目標値	R 6実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続	
市内在住の65歳以上の高齢者	介護予防教室参加延 ベ人数	٨	2 000	2 202	115. 1%-	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続	
			2,000	2, 302		最終評価	A 現状のまま継続	
・年齢を重ねてもできるだけ健康を維持し、自分らしく充実した生活を送ることができるようフレイル予防事業を実施する。 ・複数の手法を用い、健康に関する知識やフレイル予防について普及啓発を行い、 自宅等でも実践してもらう。	必要経費						【参加者層の拡充】 ・高齢化社会において介護予防は不可欠であり、「自分はまだ関係ない」 と考える層への意識啓発が必要。65歳以上が対象であるが、参加者の年齢	
・高齢者が集う地域コミュニティの活性化を後押しし、地域における健康づくりの 機運を醸成する。	R 6予算額(千F	円)	8, 470				層に偏りあることを踏まえ、早期に予防意識を持たせる仕掛けづくりが重要と考える。 ・KPIとしている延べ人数よりも"新規参加者の掘り起こし"を重視する視点(=実参加人数)が、事業の最終目的である健康寿命の延伸に繋が	
・身体機能の維持や要介護状態に至る前段階のフレイル状態から脱却できるよう運動、口腔、栄養、脳トレ等を包含した内容の教室を令和6年度は202回実施した。 ・教室カレンダーの毎戸配布や、HP・LINE・新聞掲載等で普及活動を行った。 ・医療機関や介護保険事業所への周知、高齢者福祉課窓口や訪問時の声掛け、健康	R 6決算額(千F	円)			8, 379		るものと考える。 ・介護予防教室の参加者は女性が大半を占め、男性の参加率が極めて低いという課題がある。平均寿命の差だけでは説明がつかない性別間の参加差について、男性が参加しやすい環境づくりや企画提案が必要ではないか。性別を問わずすべての高齢者が気軽に参加できる工夫を求めたい。 【教室の魅力向上とアクセスの多様性】 ・介護予防教室には複数の講座が存在し、選ぶ楽しみがあることは参加意欲の向上につながる。一方で、開催場所が「いきいき元気館」に偏っているようにも見受けられ、他の条例館の活用によって地域全体での均等な参	
推進課と連携した事業周知などの啓発活動を行った。 ・教室に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進し た。			`			外部検証委員からの 意見等(要約・抜粋)		
時時できがは2000年間でありに60分子で3日のクラブラエアックを回りた6		図・ク	フノ・写具な	دد			加機会が提供されるべきと考える。 ・チョイソコかりんちゃんの利用促進の観点からも介護予防教室へのアク セス改善に向けて担当課とのより強い連携体制を築くべき。縦割り行政の	
フレイルを予防するためには、継続的な運動による筋力維持が不可欠であり、閉じこもり予防対策も重要である。フレイル予防教室を通じて自宅で手軽に取り組める 運動の習得と、日常的な運動の習慣化を促進し、併せて口腔機能の向上や栄養管 理、社会参加の必要性を推奨している。			ている状態	歩くのが -	日中誰とも		弊害を乗り越え、交通支援と介護予防の普及事業が双方向で相乗効果をも たらすような仕組みづくりをしてほしい。	
フレイル予防教室を通じて多くの高齢者が運動習慣を身に付け、フレイル予防を意	道くなった 話してない 質がない でない 音音がない						一般的には、要介護状態からは健康の状態への回復は難しいとされ、そ	
識した日常生活を心掛ける必要がある。しかし、各教室への参加者は健康意識の高い方の参加に留まっており、意識の低い方の参加に向けた取り組みを行う必要がある。	からだの能力	生活習慣の見直して、フレイル予防! 悪くなれば 後戻りは難しい…					の前段階のフレイル状態から健康の状態への回復は可能とされている。そのためには、継続的な運動とフレイルや介護に対する知識も必要とされるが、教室の参加者は健康意識の高い女性に偏っているのが現状である。 幅広い方に参加いただくためには、外部検証委員からの意見にもあるように、性別を問わずすべての高齢者が気軽に参加できる工夫が必要となっ	
・令和6年度のフレイル予防教室参加者は、コロナ禍前の平成30年度(2,087人)と 比較しても1.1倍になっており、コロナ禍前の水準を超える多くの方にご参加いただ き、健康の維持改善に対する意識の高まりが伺える。	-		加齢	-			てくる。現在も教室がマンネリ化とならないよう講師と共にアイデアを出し合っているが、なかなか男性や前期高齢者の方の参加に至っていないため、周知方法には更なる検討が必要である。 また、参加はしたいが自分で車の運転ができない、また家族の送迎も望	
・多くの教室参加者から満足という評価を得ているが、引き続きマンネリ化しないよう講師と共にアイデアを出し合い、楽しみながら学べる教室としていく。参加されない方にヒアリングを行うと交通手段を挙げる方がいるため、令和7年度に毎戸配						是绞判断理中	めない等交通手段のない方もおられるため、新公共交通手段である「チョーイソコかりんちゃん」の利用について担当課と連携を取りながら利用促進ーを図っていく。	
て掲載を行った。 ・高齢者人口が増加するなか、当事業を通じて元気な高齢者を増やすことにより年々増加している介護給付費や介護保険料の抑制につながるため、引き続き参加者ニーズを捉えた教室を開催していく。							参加された方からは、教室への高い評価をいただいているので、いかにして1回目の参加をしていただけるかの手法が要となる。今後も引き続き講師と共にアイデアを出し合いながら、魅力的な教室が継続して開催できるよう取り組んでいきたい。	
元気なうちからフレイル予防に関心を持ち、多くの高齢者に参加していただけるようニーズ把握を行い、多彩な教室を実施できるよう企画運営に取り組む。また、かかりつけ医等から各種教室への参加を促す体制の構築を図る。	ひらめきハツラ	ā	5たまからだ元	気教室				
	高齢者福祉課・高齢者福祉係 市内在住の65歳以上の高齢者 ・年齢を重ねてもできるだけ健康を維持し、自分らしく充実した生活を送ることができるようフレイル予防事業を実施する。 ・複数の手法を用い、健康に関する知識やフレイル予防について普及啓発を行い、自宅等でも実践してもらう。・高齢者が集う地域コミュニティの活性化を後押しし、地域における健康づくりの機運を譲成する。 ・身体機能の維持や悪介護状態に至る前段階のフレイル状態から脱却できるよう運動、口腔、栄養、脳トレ等を包含した内容の教室を令和6年度は202回実施した。 ・教室カレンダーの毎戸配布や、HP・LINE・新間掲載等で普及活動を行った。・と原機関や介護保険事業所への周知、高齢者福祉課窓口や訪問時の声掛け、健康推進課と選携した事業周知などの啓発活動を行った。 ・変室に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。・教室に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。・講師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 フレイルを予防するためには、継続的な運動による筋力維持が不可欠であり、閉じこもり予防対策も重要である。フレイル予防教室を通じてきなの言能者が運動による筋力維持の第一に取り組める運動の習得と、日常的な運動の習慣化を促進し、併せて口腔機能の向上や栄養管理、社会参加の必要性を推奨している。 フレイル予防教室を通じて多くの高齢者が運動習慣を身に付け、フレイル予防を意識した日常生活を心掛ける必要がある。しかし、各教室への参加者は健康意識の高い方の参加に留まっており、意識の低い方の参加に向けた取り組みを行う必要がある。 ・令和6年度のフレイル予防教室参加者は、コロナ禍前の水準を封える多くの方にで参加いただき、健康の維持改善に対する意識の底まりが同える。 ・今和6年度のフレイル予防教室参加者は、コロナ禍前の水準を封に入り、対しないまる。・多くの教室を上ていく。参加いただち、健康が対しているが違格が付費や介度保険料の抑制につながるため、引き続き参加者に予な力がしている介護を付費や介度保険料の抑制につながるため、引き続き参加者に不知り組む。また、か	高齢者福祉課・高齢者福祉係 市内在住の65歳以上の高齢者 ・年齢を重ねてもできるだけ健康を維持し、自分らしく充実した生活を送ることができるようフレイル予防事業を実施する。 ・複数の手法を用い、健康に関する知識やフレイル予防について普及啓発を行い、自宅等でも実践してもうう。 ・高齢者が集つ地域コミュニティの活性化を後押しし、地域における健康づくりの機能を開放する。 ・身体機能の維持や要介護状態に至る前段階のフレイル状態から脱却できるよう運動、口服、栄養、部レルラを包含した内容の教室を今和6年度は202回実施した。・教をカレンダーの毎戸6年か、中、11世・新聞掲載等で表及活動を行った。健康推進設と選坊した事業用如なとの啓発活動を行った。・と思修機関や介護保険事業所への問知、高齢者福祉課家口や訪問時の声掛け、健康推進設と選坊した事業周知なとの啓発活動を行った。 ・教室ルンダーの毎戸6年の中、小は11世・新聞掲載等で表及活動を行った。健康、2000年の毎戸6年の中、15日・17日・18日・18日・18日・18日・18日・18日・18日・18日・18日・18	高齢者福祉課・高齢者福祉係 ・年齢を重ねてもできるだけ健康を維持し、自分らしく充実した生活を送ることが ・後数の手法を用い、健康に関する知識やフレイル予防について普及啓発を行い、 自宅等でも実践してもらう。 ・系齢者がまず地域コミュニティの活性化を後押しし、地域における健康づくりの 機速を観成する。 ・身体機能の維持や要介護状態に至る前段階のフレイル状態から脱却できるよう運動、口腔、栄養、脳トレ等を包含した内容の教室を分和6年度は202回実施した。 ・安室がレジーの毎年部で・駅・山脈・開開観等で言法が急を行った。 ・ 接護機関や介護保険業展所への同知、高齢者福祉課念口や前間時の声掛け、健康 ・ 変差に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 選挙に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 講師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 数差に通うツールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 講師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ が全に通うツールを特別で変更がある。 ・ プレイルを予防するためには、継続的な運動による筋力維持が不可欠であり、閉じこもり予防対策も重要である。フレイル予防教室を通じて自宅で手軽に取り組める 運動の監得と、日常的な運動の監督化を促進し、併せて口腔機能の向上や栄養管理、社会参加の必要性を推奨している。 ・ プレイル予防教室を通じて多くの高齢者が運動習慣を身に付け、フレイル予防を意識したりに対しませ、単一の大学を観える多くの参加者は健康意識の高しい方の参加に同まっており、意識の振りが可える。 ・ 今の教室をが直び下が教室を通じてあるが、引き続きつンネリルしない方にとアリングを行うと交通手段を挙げる方がいるため、引き続きの変更がある。 ・ 今の教室をからをという評価を得ているが、引き続きをかる変としていく、参加さい方にとアリングを行うと交通手段を挙げる方がいるため、引き続きの対しにに毎戸記で記録を行った。 ・ 添添者人のが増加するなが、当事業を通じて元気な高齢者を増やすことにより年で増加している介護保険料の抑制につながるため、引き続きか加者にしただけるようの高齢者に増やすことにより年で増加している介護保険料の抑制につながるため、引き続きを加者に一人で発力を発力している方は保険料の抑制につながるため、引き続きを加者に一人で表しまりできまります。 ・ 添添者といが増加するなが、当事業を通じて元気な高齢者を増やすことにより年で増加している介護保険料の抑制につながあるため、引き続きを削者にしている。参加を表しまりであります。 ・ 小は保険に関いる対しないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないただけるようないまがいただけるようないただけるようないたが、まれないただけるようないたが、まれないために対しまれないたが、まれないために関いでは、中心に関いでは、中心に関いするが、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いを加入を使いでは、中心に関いを使いでは、中心に関いでは、中心に関いないが、中心に関いを使いでは、中心に関いのも、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関するなり、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関するなどは、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関いでは、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関いでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関するないでは、中心に関すないでは、中心に関するないでは、中心に関するない	高齢者福祉漢・高齢者福祉係 市内在住の60歳以上の高齢者 小鹿の手込を開い、健康に関する知識やフレイル予防下業を実施する。 ・接数の手込を用い、健康に関する知識やフレイル予防について書が啓発を行い、 主要の手込を用い、健康に関する知識やフレイル予防について書が啓集を行い、 言語者が表す。地域コミュニティの活性化を後押しし、地域における健康づくりの 機器を確成する。 - 身体機能の維持や要介護状態に至る前段階のフレイル状態から設却できるよう運 助、口腔、栄養、脳トレ等を包含した内容の教室を令和4年度は2020原集した。 ・ 後盤を組成する。 - 身体機能の維持や要介護状態に至る前段階のフレイル状態から設却できるよう運 助、口腔、栄養、脳トレ等を包含した内容の教室を令和4年度は2020原集した。 ・ 後盤を機関や介護保険事業所への周知、高齢者福祉課立でおり、たまま開知とので発活動を行った。 ・ 教室アに通うジールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 満師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 満師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 満師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 満師や参加者からの評価や高見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 満師や参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ 満師や参加者から原本の事情化を促進し、併せて口腔機能の向上や栄養管理、社会参加の必要性を推奨している。	高齢者福祉課・高齢者福祉係 市内在住の66歳以上の高齢者 ・	高齢者福祉係 指標 単位 R6目標値 R6実績値 遠域率 市内在住の55歳以上の高齢者 ・ 年齢を垂ねてもできるだけ健康を維持し、自分らしく充実した生活を送ることが できるようフレイル予約事業を実施する。 ・ 特数の子法を担い、健康に関いる知識やフレイル予防について普及会争を行い。 日本等でで表践してもらう。 ・ 予な機能の維持や要介透状態に至る前時間のフレイル状態から脱却できるよう連携である。 ・ 書籍者が実う地域にフェーティの活性化を後得しし、地域における健康づくりの 機速を観覚する。 ・ 事を担いこからう。 ・ 予な機能の維持や要介透状態に至る前時間のフレイル状態から脱却できるよう連 数、にはた、発表・動としきを含さした内容の数を合われら様は202回表した。 ・ 表望カレンターの毎戸配命や、PF 別に、新聞報報が表記でおりた。 ・ 表望カレンターの毎戸配命や、PF 別に、新聞報報が表記でおりの申請け、健康 地理法と基状に表集無知などの場合を発見し、特別のもの場合を指し、 ・ お室に泊 シャールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 決定に泊 シャールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 決定に泊 かールとして「チョイソコかりんちゃん」等公共交通の利用を推進した。 ・ 決断が参加者からの評価や意見により教室内容のブラッシュアップを図った。 ・ プレイルを予防するためには、腰筋的な運動による筋力経時か不可欠であり、関し こもり予助がまた重要である。フレイル予防数室を逃じて自宅で手軽に取り組のる 選いた日本注をも受けないが必要を発きして自宅で手軽に取り組のる は、対策を受けないる場合を発して、中でであり、対しては、対策の場合と、日本的な運動の場合を発して自宅である。 リール・大阪教室を開いるから表もしているが、別を教室への参加者は建築を譲るの高しい方の参加と同けた取り組みを行う必要がある。 ・ 全和6年度のフレイル予防数室参加者は、コロナ機能の中でのかまと見らいの場合と、10万人を発生を入り、でも21年度によりまるでは、10万人を対した。 ・ 全和6年度のフレイル予防数室参加者は、、コロナ機能ののよう。 10万人を対しているが、10万人を対しているが、10万人を対しているが、10万人を対しているが、10万人を対しなが、10万人を対しなが、10万人を対しないまた。 ・ 全和6年度によりまを持ちらい、第5人の表もとしているが、10万人を対しなが、10万人を対しままた。 ・ 本の数さによりまなから、10万人を対しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが、10万人を表しなが	語吟古福社課・長齢者福祉祭 第一年 R 6 目標区 R 6 実績区 遠底率 外部検証委員会前の 即内在在の55歳以上の高齢者 の内在在の55歳以上の高齢者 の大人教 の電子的教室参加区 人 2,000 2,302 115.18 「中部を重ねてもできるだけ技能者を維持し、関からしく充実した生活を送るととが できるようフレイル予防を生また実施する。 「大学・大きしてもった。フレイル・アのだけを後継でフレイル・アのだった」と、世級における健康プイリの 機工を構成する。 「おきかきかまうかりこと」と、アイの形式性化を使用し、地域における健康プイリの R 6 子質類 (千円) 8,470 「本学・中末美しても、地域、アイリー・大きないでは、大きないのでするよう A 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	

事業名	種まくブック事業			KPI					
担当課・係	生涯学習課・図書館	指標	単位	R6目標値	R6実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	B 手段改善の上継続	
対象者	年度内に18歳になる、諏訪市在住者および出身者。令和6年度は平成18(2006)年4月2日~平成19(2007)年4月1日生まれの方。	案内人数に対する申 込件数の割合	%	40.0	29.5	73. 8%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続	
							最終評価	A 現状のまま継続	
事業のねらい	令和4年の成年年齢引き下げを契機に、18歳の成人祝いとして本を1冊プレゼントする諏訪市独自の取組を開始。本を読むことで得た知識や知恵が、悩みや迷いを抱えた時の指針となり道が拓けることもあることから、生きる力を育む一つの方法としての読書を勧めることで、新成人にエールをおくる。また、岩波書店の本から			必要経費				【読書を促す取組の意義】 ・読書離れが進む中で若者に本と接する機会を提供する素晴らしい取組と 評価できる。 ・DMやSNSといった訴求方法では限界がある一方、幅広い層に届く工夫を	
事 未の71なり()	選ぶことで、創業者の岩波茂雄と信州風樹文庫について、諏訪の特色として知ってもらう。	R 6予算額(千F	596				重和るべき。 ・予算の柔軟な活用(配布冊数の追加など)も含めて、事業の継続を強く望む。 【幅広い層への周知】 ・高校に通っていない、又は働いている新成人など、現状の周知方法の枠外にいる18歳にも届ける方法を模索すべき。 ・大人が集まるイベントでのPRや、身近な大人による声掛け、ポスターの活用など、幅広い接点を通じて「あ、自分が対象なんだ」と気づいてもら		
	諏訪市在住の対象者に案内を郵送し、掲載されているQRコードから電子申請で希望の本を申込する。選書の対象は、岩波書店発行の岩波新書・岩波ジュニア新書・ 岩波文庫等から選ぶ。案内に掲載されているおすすめ本から選ぶか、同封のガイド ブックやインターネット等で好きな本を選ぶことができる。プレゼントは、スマー	R 6 決算額(千円)						24:	
事業の手段	トレターで郵送される。 諏訪市在住でない対象者には案内を郵送する手段がないため、ホームページや口コミに頼った周知のみ。	図・グラフ・写真など					外部検証委員からの 意見等(要約・抜粋)	つかりには、	
事業概要・現状	18歳新成人へのお祝いに、岩波書店発行の岩波新書・ジュニア新書・岩波文庫等を贈る。対象は諏訪市在住または出身の今年度18歳になる市民。好きな本を選び、ながの電子申請から申込をする。130冊を配布し、ジャンルや内容が多岐にわたる興味のある本を贈ることができた。	今まからえべるまからかり 新成人に届けた *#BEGIT	ました! 製造製品 製造機工工程機・ 製造工程をとから もらえる!	私は今まで岩波新書に対して難しい イメージがあり、ほとんど読んだこ とがありませんでした。今回、「種				等によって、若者の存在と考えに触れる機会が市民に広がる可能性にも期待したい。	
課題	申込数は令和5年度と令和6年度と続けて3割前後と定着しているが、高校生の不読率が48%(2024年5月1ヶ月間に読んだ本が0冊の高校生。全国学校図書館協議会調査)であることを考慮すれば、まだ増加の余地はある。忙しいなどの理由で申込みそびれている層への働きかけが必要。	####################################	10.31(木) 118歳を送えるカ ゼント!	まくブッ 書に幅広	ク」をきっかけ い分野の本があ を持ちました。 白く、お気に入	に、岩波新 ることを知 頂いた本は		案内人数に対する申込件数の割合が目標値に達しなかったことから、更なる対策をする必要があると考え、担当課評価を「B 手段改善のうえ継続」としたところであるが、外部検証委員各位から取組の意義について高く評価いただいたことに加え、地域と若者の結びつきへの期待を寄せていただいたことを踏まえ、改めて、制度や主旨を継続、定着させる必要があると考え、「A 現状のまま継続」に変更した。 一方、周知するための方策は引き続き検討する必要がある。対象者だけ	
令和6年度実績に 対する考察	5月から10月の申込期間中、申込みが多かった月は10月で、次が5月と9月だった。この傾向は令和5年度も同様で、10月に多いのは、それまでの未申込者に「締切間近」を知らせる通知を郵送したため。締切に余裕があると忘れられる傾向がある。その間に、市のLINE、高校からの情報配信などを行ったが、それにより申込みが増えたという手ごたえはなかった。そもそも最初の案内通知を開かないという声も聞かれたので、令和7年度は封筒にイラストや中身がわかる文言を印刷して送ってみたところ、やや申込みが増加しており、若干効果が見られた。	本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を基本を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を表示を		日本の 日本 			最終判断理由	でなくさまざまな年代層に広く周知されることが肝要とのご意見から、身の周りの大人からの声がけや、18歳になったら本がプレゼントされるという事前の情報が行き渡ることが申込につながる有効手段となるとの示唆を得た。 諏訪市ならではの特色ある取組であることを踏まえ、子どもから高齢者までどうアピールしていくか、引き続き模索して参りたい。	
今後の取組の方向性	案内におすすめ本を増やす、電子申請の方法を改善するなどわかりやすさに努めるとともに、高校に協力を依頼し、情報配信に加え、本を見て直接選べるような場を作ってもらう、高校生が集まるイベントでPRする、など、周知に努める。		- CONT.						

事業名	スマートIC整備事業			KPI			評価・効果検証結果		
担当課・係	建設課・建設係	指標	単位	R6目標値	R6実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続	
対象者	高速道路利用者 (広義的には市内の観光・商工業に関わる方、また渋滞緩和の恩恵を受ける通行 者)	道路築造工事整備延 長		70	60	85. 7%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続	
刈家白			m				最終評価	A 現状のまま継続	
事業のねらい	諏訪湖サービスエリアにスマートICを設置するためのアクセス道路(約580m)を整備して、諏訪湖へのアクセス性を向上させ、上諏訪温泉や工業団地等までの移動時間短縮に伴う商工業の発展や、観光振興を目的としている。特に令和6年4月に全線開通した諏訪湖周サイクリングロードとの相乗効果を期待。また、車両分散による諏訪インターチェンジ周辺の渋滞緩和にも寄与すると考えている。			必要経費				【スマートIC開通による効果】 ・説明にあった救急搬送の時間短縮になるといったことこそ住民に対する 安心安全の効果として強調できる点であり、この点をもっとPRしても良 いのではないかと感じる。	
争未のなりい		R 6 予算額(千円)		699,		699, 803		【KPI】 ・整備中の事業であり難しい面もあるが、アウトプット・アウトカムに着目したKPI達成状況がより適切であろうと考える。	
	主要地方道岡谷・茅野線(岡谷市地籍)から有賀峠までの新設となる主要地方道諏訪・辰野線における道路整備を長野県が担い、その一部がスマートICのアクセス道路となる。当該県道から諏訪湖サービスエリアゲートまでのアクセス道路整備に関しては、中央道の上り線は諏訪市、下り線は岡谷市が担当。	R 6決算額(千F	円)			655, 369		【他の事業との連携】 ・サイクリングロード事業との連携という点について、サイクリングロー ドの活用が本来のポテンシャルを考えると進んでいないように感じる。ス	
事業の手段	中日本高速道路株式会社、長野県、岡谷市及び諏訪市の4者が事業主体として連携をしつつ、地元住民の理解を得るために丁寧な説明をしながら道路整備を行う。		図 ・ グ	うフ・写真な	ስሥ		外部検証委員からの 意見等 (要約・抜粋)	マート I C開通後のサイクリングロードの活用という点についても今後検討してほしい。	
			凶· /	プ ク・ サ兵 で	, C				
事業概要・現状	アクセス道路(諏訪市施工分)および新設県道(県施工分)の整備工事を実施中である。 工事進捗率(諏訪市施工分)94%であり、県を除いた3事業者の進捗率は98%と なっている。	聚訪湖	【 全体平	面図(事業者区分	})]	×			
	継続しての道路整備工事となるが、大規模事業となるため財源の確保と、岡谷市な	県施工	岡谷市施工	中日本高速道路(株	東訪市施工				
課題	らびに当市の地元住民理解を得ながら事業を進めること。新川水系神子沢水路改修 工事や新設県道2期分(諏訪市側)の継続に向けて、合意形成を図ること。			K	新設県道2期分			て、令和3年度に工事着手した本事業は、当初予期し得なかった脆弱な地盤が確認にされたことによる追加工事などにより、供用開始が延期となったものの、令和6年度末時点の当市施工分における工事進捗率は94%となっている。また、諏訪湖スマートIC開通による観光振興や商工業の発	
	・令和6年3月末に予定をしていたスマートICの供用開始を令和7年夏ごろに延期(令和5年11月に公表)としたことに伴い、令和6年度においては安全第一と	_						展はもとより、市内の渋滞緩和や災害時における重要輸送路など、多方面 による効果が期待されていることから、「現状のまま継続」が適切と判断 した。	
令和6年度実績に	しながらも、工事用車両の通行ルートなどに関して、地元住民等に対して丁寧な説明を行い、理解を得ながら工期短縮と品質確保に努め事業進捗を図ってきた。 ・その結果、令和6年度末時点における工事進捗率(諏訪市施工分)94%であり、 県を除いた3事業者の進捗率は98%であった。		سادر	(and according				諏訪湖スマートIC開通による効果に関しては、前段にて記載した以外にも諏訪赤十字病院までの緊急搬送における時間短縮、リニア新幹線を関連させた交通ネットワークの構築など多岐に渡るが、それらを広く市民へ周知するため、諏訪市のホームページをはじめ新聞社などの報道機関との	
対する考察	・令和7年夏ごろ(7月27日確定)の供用開始に向けて、道路整備を進めることができている。				6.76		最終判断理由	連携による情報展開に関しても今後も研究したい。また、今回は事業のス ケジュールや整備すべき道路延長が決まっていたことから、KPIを道路 築造工事整備延長とした経過がある一方、今後におけるKPIの設定には	
	令和7年7月27日の供用開始に向けて、県や岡谷市、中日本高速道路㈱と連携し、地							アウトプット・アウトカムに着目していきたい。他方、湖周サイクリング リード事業との連携に関しては、民間を含めた関係機関との協議・調整を 行いながら、諏訪湖スマートIC整備効果を最大限に感じていただけるよ う取り組んでいく。	
今後の取組の方向性	元住民の理解を得ながら丁寧かつ着実に事業を推進する。	諏訪湖SAアクセ	ス道路(市道33225号級	ま) の状況: 岡	谷市方面			

事業名	諏訪湖イベントひろば整備事業			KPI			評価・効果検証結果		
担当課・係	企画政策課・企画政策係	指標	単位	R6目標値	R6実績値	達成率	外部検証委員会前の 担当課評価	A 現状のまま継続	
対象者	全市民及び市内事業者の他多数	本公募参加事業者数 (本公募までの間 は、継続的に問い合 わせ等のある参加見 込事業者数)	者	5	2	40.0%	外部検証委員会の評価	A 現状のまま継続	
刈豕旬					2		最終評価	A 現状のまま継続	
=** 040.21.)	令和3年9月に策定した「諏訪湖イベントひろば基本計画」では、諏訪湖イベントひろばには、産業振興機能、コミュニティ(防災)機能、観光機能等を導入するという基本的な方向性が示された。また、整備に当たっては、民間のノウハウや民間資金を活用することとしている。			必要経費				・この場所に工場のようなものが建つのか、ショッピングセンターのようなものが建つのかによって、街の雰囲気が大きく変わる。その意味において、広大なこの土地をどうやって活用していくのか市民としても大きな関心事である。	
事業のねらい	敷地内にこれらの機能を有する施設を整備することにより、工業や観光業等を中心とする産業振興やまちの賑わい創出に寄与することを目的としている。	R 6 予算額(千円) 50,00				50,000	・基本計画にあるような機能を全て網羅したような施設ができると思う。 思う。 ・スマートICが開通することも踏まえ道の駅のようなものができれ 光や産業振興に寄与すると同時に高齢者も出掛けやすいのではない		
	・土壌調査の実施(R6実施) ・現建屋の解体(R8実施予定) ・整備方針の検討、策定(基本計画の具体化) ・官民連携方針の策定	R 6 決算額(千円) 35, 332				35, 332		える。 ・どんな施設ができるかによって、イメージは大きく変わると思う。今 後、作り上げるより詳細な計画が良いものになるよう進行していって欲し	
事業の手段	・サウンディング調査 ・公募要領の作成 ・公募、審査、基本協定締結 ・契約内容協議、事業契約締結 ・整備開始		図・グ	ブラフ・写真な	にど		外部検証委員からの 意見等(要約・抜粋)		
事業概要・現状	諏訪湖イベントひろばを上諏訪駅周辺の一体的整備に位置付け、駅周辺の賑わい創出、諏訪地域の魅力発信の拠点となるよう、基本計画を基に準備を進めている。令和6年度は、現建屋の解体や将来の整備を見据え、敷地全体の土壌調査を実施した。	▼調査結果 調査対象物質 第一種特定有害物質 : クロロユキレシ、!i-ククロロユキトン、 *トラクロロユキレン トラクロロユキトン、	ロロエ	点中15地点で土壌ガ	査結果 ス(トリクロロエチレ のの、土壌採取による ま場合があった。	ン、テトラク る分析の結果、			
課題	令和6年度に実施した土壌調査の結果、本敷地一帯が土壌汚染対策法の規定による区域指定を受ける見込みとなった。また、基本計画策定時には具体化していなかった文化センター大規模改修事業など、他の大型事業が具体性を帯びるなど大きな状況変化が生じている中で整備に向けた準備を進めていく必要がある。	第二種特定有害物質 : 鉛及びその化合物 第二種特定有害物質 : 砒素及びその化合物 第二種特定有害物質	162地, 量基準2 128地, 自然由3 適合が6 108地,	点中21地点で基準不 不適合が16地点、含 点中62地点で溶出量 来特例調査については 確認された。 点中3地点で溶出量基 来特例調査については	適合が確認された。2 育量基準不適合が11世 基準不適合が確認され 、敷地東端・西端の同 準不適合が確認された 、敷地東端で基準不通	地点であった。 た。 両地点で基準不 。 適合が確認され、		・本事業に要する予算が大規模なものとなることや他の大型事業とのスケジュール上の関係性等から直ちに本格着手できるものではないことについて、外部検証委員会においても理解を得られたものと認識した。 ・そうした中においても、令和6年度に実施した土壌調査のように現在できることを着実に進めることが肝要と考える。 ・外部検証委員会では、市民をはじめとする外部の方の本事業に対する期	
令和6年度実績に 対する考察	・土壌調査により敷地一帯の土壌汚染状況を把握することができ、これに基づき令和7年度に土壌汚染対策法に基づく区域指定の申請を行う準備ができた。・土壌調査及び法に基づく区域指定手続きは、令和8年度以降の現建屋の解体又は将来の大規模整備の際に行うことも許容されるが、このタイミングで実施することにより、実際に事業を実施する際のスケジュールの短縮に繋がるものとなった。・一方、本調査により土壌汚染が明らかとなったことから、建屋解体の工法や大規模整備の際の建築物の配置・工法などについて調査結果を織込んだものとする必要が生じた。 文化センター大規模改修、駅西口広場整備とともに、上諏訪駅周辺の一体的整備の	埋設廃棄物 (焼却灰) ▼想定される区域	: ふっ素及びその化合物 西端では基準適合であるが、基準の0.5倍程度の溶出量が確認された。					待を感じた。 ・外部の方の期待には、本敷地内への商業系施設など収益性の高い施設の立地への期待も相当程度含まれるものと考えられる。この点に関しては、行政側の財政負担の低減という観点からも重要であることから、今後、PPP/PFIを念頭に置いた事務事業や民間との対話を行う中で重点的事項として取り扱っていきたい。	
今後の取組の方向性	一つとして位置付け、上記の状況変化を踏まえつつ関係者との協議や調整を行っていく。また、土壌汚染対策法に基づく申請を令和7年度中に行う。	□: 敷地境界線 □:30 ■: 形質変更時要届出区域 ■: 形質変更時要届出区域	m格子: (自然由来特例区 (一般管理区域) (一般管理区域)		12 13 14 15 点 一:[想定]申粛習理展範 不適合確認範囲 不適合確認範囲(平成 17 年度社	DE			